

# わたしの 効果倍増! 教材活用術

## 「らくらくノート」の有効活用

岡山市立西大寺小学校 澁谷 大志

はじめに

ここでは、私が2年生の時から担任している3年生の子どもたちの様子に限定して、新学社「らくらくノート」（くりかえしドリル専用ノート）を有効に活用するための取り組みを紹介したいと思います。

3年生の子どもたちが「らくらくノート」と出会ったのは、2年生の時にあります。2年生といえば、ノート作りの基礎・基本を身



▲「らくらくノート 計算」と「らくらくノート 漢字」

につけていく大事な学年であり、新年度のノートの採択にあたって、「らくらくノート」は「どの子どもにも決まった形式で、基本的なノートの作り方を継続的に指導することができる」と考え、採択することにしました。

「らくらくノート」には漢字と計算の2種類のノートがあります。2年生の時は計算を、3年生1学期は漢字と計算を、2学期以降は計算のみを使用しました。つまり、計算は継続的に、漢字は3年生のはじめの4か月間に限って使用したことになります。ここでは、長い間使用している「らくらくノート 計算」を中心に紹介したいと思います。

### 1 3年生の実態

3年生では一般的に、罫線や大きなマス目が書かれている低学年用のノートから、高学年でも使用する方眼ノートに移行します。

整理されていて見やすいノートを作る力は、学習を進めていく上で必要不可欠であり、高学年でも使用する方眼ノートを初めて使う3

年生は、その後の学習を左右する重要な時期と言っても過言ではないでしょう。

しかしながら、低学年用のノートと方眼ノートの違いに混乱してしまい、なかなか方眼ノートの書き方を身につけることができない子どもがいます。そのような子どもに対しては個別に何度も書き方を指導するしかありません。

しかし、子どもにとってできないことを何度も繰り返し指導されることはつらいことであり、自信や意欲をなくしてしまう原因にもなります。できるだけわかりやすい形でノートを作る力を身につけられるように、支援・指導を工夫していくことが求められている、と言えるでしょう。

また、この時期の子どもたちは学校生活にも慣れたためか、急に字を崩して書き始めたり、定規を使わなかったりと、低学年までの姿勢が崩れてくる子どもがでてきます。このような子どもに対しては、その都度個別に指導が必要になってきますが、指導する私たちも他の指導に追われ、現実的にはそのような時間は取りにくいものです。

また、「見やすいノートを作る心地よさ」「見やすいノートの便利さ」をしっかり一人ひとりに体感させることも重要ですが、現実的にはそれなかなか難しいものです。

これらの課題に対していかに支援・指導をするか。この時期のノート指導は、低学年までのノート指導とはまた違った工夫が求められていると言えるでしょう。

日々の授業で使う教材や教具。隣のクラスや隣の学校のあの先生は、一体どんな使い方をしているのでしょうか？ このコーナーでは、気になる教材活用術を紹介します。

## 2 指導の実際

このような課題に対して有効な手立てとならず、どのような場面でも「らくらくノート」を利用し、どのような場面でも一般的なノートを利用したのかを紹介します。

### (1) 「らくらくノート 計算」

基本的には計算ドリルの宿題専用ノートとして使いましたが、授業中に計算ドリルに取り組み時にも使いました。(通常の算数授業用と家庭での自主学習用にはそれぞれ別々に10ミリ方眼ノートを使いました)

### (2) 「らくらくノート 漢字」

「らくらくノート 計算」と同様、宿題専用ノートとして使いました。また、これとは別に、マス目だけの漢字練習ノートも宿題ノートとして使いました。

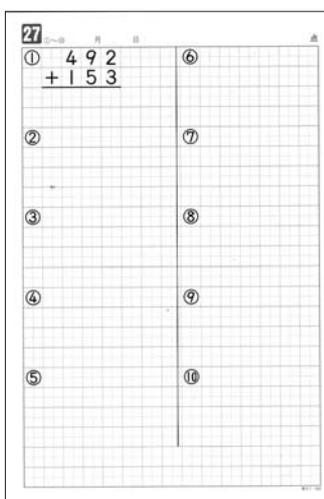
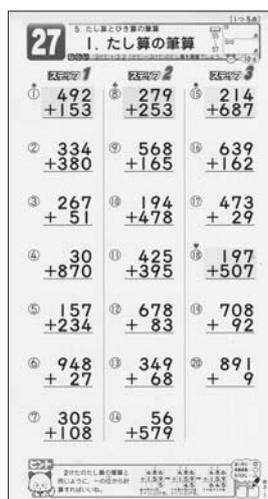
## 3 「らくらくノート 計算」の長所と短所

実際に使用してみると、例えば使うほどの長所が感じられました。また少しづつ短所も見えてきました。以下に挙げてみましょう。

### ● 「らくらくノート 計算」の長所

①ドリルの問題に対応したノート構成になっている。

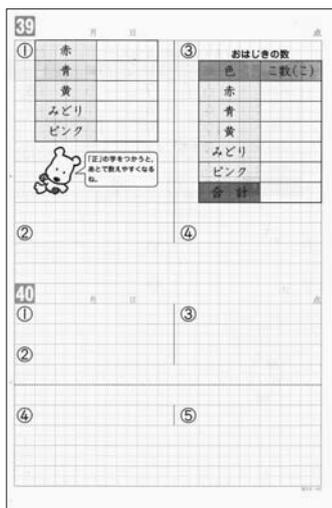
②ノートに問題番号があり、計算と計算の間隔がすっきり取れるようになっていて、(フ)ノートの見やすさやぐちゃぐちゃになりがちな児童でもとても見やすいノートになる)



▲「らくらくノート 計算」3年

▲「くりかえし計算ドリル」3年

③表やグラフの問題に対しては、らくらくノートに解答用の枠があり、そこに書き込めるようになっていて、(計算ドリル)に書き込ませたり、特別にプリントを用意したりしなくてもすむ)



④ノートが見やすいため、丸付けがともしやすい。また、ドリル番号が指定されているノートなので、全員必ず一回はしたことを容易に確認することができる。

⑤ノートが見やすいため、自分が間違えた問題がすぐわかる。そのため、間違い直しに取り組みやすい。

⑥ノートに余白があるため、教師から励ましのコメントを書いたり、つまりいている部分への具体的な指導を書いたりできる。

⑦整理されて見やすいノートができあがるため、自然と丁寧な字で書いたり、ものさしを使ったりする。

⑧ノート作りに気を遣う必要がないので、学力的に支援が必要な子どもでも無理なく取り組みことができ、算数の問題に集中することができる。

⑨保護者にとっても子どもの学習到達点が見えやすくなり、家庭で指導がしやすくなる。

### ● 「らくらくノート 計算」の短所

①最後に自由ページはあるが、基本的には一回しかできず、繰り返し学習に向いていない。

②便利すぎて、ノートの作り方そのもの(見やすいように問題と問題の間隔は一行空けるなど)を練習するチャンスがない。「ノートの決められた枠に、機械的に数字や図を書いていくだけの作業」になりがちである。

このように、「らくらくノート計算」は子どもにとっても、指導する教師にとっても「見やすい、わかりやすい」ことによる長所がたくさんあります。一方で、その「見やすさ、わかりやすさ」を優先したノート構成によって、繰り返し学習をしたり、ノートを作る練習をしたりすることができにくくなってしまうのも事実です。そこで、一般の方眼ノートを並行して利用することで、これらの課題に対処することにしました。

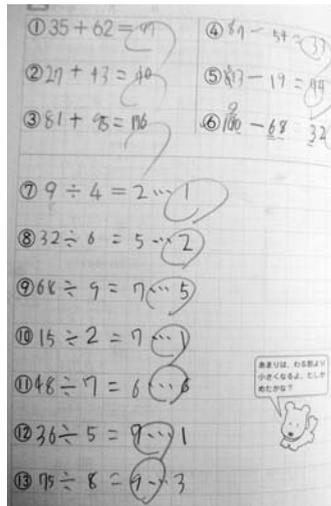
#### 4 「らくらくノート計算」を教科書にした方眼ノート作り

「らくらくノート計算」は、言わば「究極に整理されたノート」と言えます。私の学級では、①「らくらくノート」を教科書にして見やすいノート作りを指導する ②同レイアウトで自主学習用の方眼ノートにもう一度計算ドリルを解かせる、という取り組みをしました。こうすることで、繰り返し練習もでき、またノートを作る練習も同時にすることができるとは思いませんでした。

最初は「上手にできない子どももいるかな」と心配しましたが、「らくらくノート」で一度ノートを作っているためか、どの子どもも想像以上にスムーズに取り組むことができ、今ではとても整理された見やすいノートを作ることができています。また、自分だけの力で作ったノートを見て「見やすいノートがで

きた！」との喜びの声も聞かれます。

2冊のノートを併用する方法は、保護者の負担は増えますが、子どもにとっては「少ない負担で確実にノートを作る力を身につける方法」であり、この取り組みを通してノート作りに自信を持つとともに、きれいで見やすいノートを作る心地よさを感じることができたとように思います。



▲「らくらくノート」を使った学習



▲方眼ノートでの学習

#### 5 「らくらくノート漢字」を利用して

「らくらくノート漢字」も計算と同じように「見やすく、わかりやすい」ノートになるように工夫されているので、どの子どもも

無理なく学習に取り組むことができました。

また、ノートにも手本となる漢字が書かれているので、効果的に正確な漢字を書く練習をすることができました。

しかしながら計算ノートと同様、漢字を繰り返し練習しにくく、またノートそのものを作る練習にはなりにくかったため、4か月間だけ使用し、一般の漢字ノートに移行しました。これも計算と同様、「らくらくノート」を手本として漢字ノートの作り方を練習したので、今ではどの子どももていねいな字で見やすいノートを書くことができるようになっています。

#### 6 終わりに

2年間にわたって使い続けた「らくらくノート」。一般の方眼ノートと併用する方法は、少ない負担で確実にノートを作る力を身につけることができ、とても有効でした。

新学期が始まり、新しい「らくらくノート」を手にしたとき、「よし！やるぞー！」「今年は何をやるのかな？」「何回ずつやるのかな」といった声が聞かれます。この前向きな姿こそ、私たちが求めている姿であり、子どもたちが一番輝いている姿だと思います。これから先も、いろいろな問題との出会いを通して、一層成長していくのを願うばかりです。